

# こまつおいせき 小松尾遺跡

所在地 都城市<sup>おとほう</sup>乙房町

調査期間 第一次調査 2017年11月13日～2018年 1月25日

第二次調査 2018年 5月28日～2018年10月 3日

## 【遺跡の概要】

小松尾遺跡は都城市の<sup>つきのぼる</sup>月野原台地東端に立地します。周辺には、古墳時代の集落跡がみつかった<sup>つるはみ</sup>鶴食遺跡のほか、小松ヶ尾合戦場跡（慶長4（1599）年「庄内の乱」）など縄文時代から近世にかけての遺跡が多数所在します。

今回の調査では、古墳時代前期の<sup>たてあなじゅうきよあと</sup>竪穴住居跡や中世から近世にかけての<sup>みぞじょういこう</sup>溝状遺構や<sup>どこう</sup>土坑、<sup>はたけあと</sup>畠跡も確認されました。特に溝状遺構では、人々が歩いた跡と考えられる<sup>こうかめん</sup>硬化面が確認され、通路としての機能を有していたことがわかりました。当時の人々の月野原台地上での生活の一端が垣間みられる調査となりました。

## 【遺構】

古墳時代前期 竪穴住居跡 1軒

中世～近世 溝状遺構6条、土坑2基、畠跡

## 【遺物】

縄文時代 打製石斧<sup>せきふ</sup>

古墳時代前期 土師器（甕、壺、小型丸底壺）<sup>はじき かめ つぼ</sup>

中世～近世 土師器坏、須恵器鉢、青磁（碗 or 皿）、砥石、軽石製品、キセル、

<sup>てっさい</sup>鉄滓



小松尾遺跡 1次調査 遠景



1号竪穴住居跡



3号溝状遺構